

## シモン、十字架を背負う

(ルカ23・26～31)

## 一、クレネ人シモン

きょうのテキストは、26節より31節ですが、26節だけを取り上げ、この聖句の並行箇所を、マタイの福音書、マルコの福音書に見つけ——ヨハネの福音書に並行箇所はありません——、主が語らんとしておられることに耳を傾けてまいりたいと思います。

さっそくですが、26節をご覧ください。**「彼らはイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというクレネ人を捕まえ、この人に十字架を負わせてイエスの後から運ばせた。」**とあります。

「彼らは」とは、だれなのでしょう。新共同訳と聖書協会共同訳は「人々は」と訳出しています。前後関係から、主イエスを十字架に追いやったのはユダヤ人たちであるので、そつしたのでありましょう。ですが歴史的な事実「兵士たち」でありましょう。死刑執行はローマ当局の責任のもとで行われたからです。そついうわけで、福音書に書かれていることは、事実をもとに記しているわけですが、それ以上に、福音書記者が何を語ろうとしているかに重きが置かれていると知るわけです。

では、26節の先を見てまいります。

## 〈田舎から出て来たシモンというクレ

ネ人を捕まえ、この人に十字架を負わせてイエスの後から運ばせた。〉とあります。いきなり、なぜ「シモン」という名が出てくるのでしょうか。ここは、マルコの福音書の並行箇所を見ますときに覚えてまいります。〈マルコ15・21兵士たちは、通りかかったクレネ人シモンという人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。彼はアレクサンドロとルフォスの父で、田舎から来ていた。〉と。マルコが福音書を記した際、マルコが属していた教会が、クレネ人シモンを、アレクサンドロとルフォスの父として良く知っていたことが分かります。

ということとは、クレネ人シモンが主イエスの十字架を——実際は横木となる木ですが——背負わされたことにより、シモンはイエスを主、またキリストと信じるキリスト者となり、その信仰は息子たちに引き継がれ、教会でこの話を知らない者はいなかったのでありましょう。

## 二、シモンと十字架

シモンが十字架を背負ったのは、自ら進んでではありませんでした。シモンはローマの兵士に捕まえられて、背負わされたのです。並行箇所のマルコの福音書とマタイの福音書を見ますと、よりはっきりと覚えてまいります。まずは、マルコの福音書です。〈マルコ15・

21兵士たちは、通りかかったクレネ人シモンという人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。〉とあります。シモンは抵抗したのかも知れません。兵士から脅されて、背負ったのかも知れません。その可能性もあります。次に、マタイの福音書を見てまいります。〈マタイ27・32兵士たちが出て行くと、シモンという名のクレネ人に出会った。彼らはこの人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。〉とあります。マタイも、**「無理やり背負わせた」と**語っています。結果は、どうなったのでしょうか。

シモンはイエスをキリストと信じ、その後教会につながり、教会では、シモンのことを知らない人はいないほどになりました。そして、息子のアレクサンドロとルフォスがキリスト者になり、しかも立派なキリスト者になったようです。親がキリスト者で、息子娘たちが信仰を持つのは、神の祝福です。当たり前なことではありません。十字架を背負わされたシモンは、神の祝福に与りませんでした。自らが救われ、息子たちも救われたからです。おそらくシモンの妻もキリスト者になったのでありましょう。

## 三、十字架と私たち

今回のテキストは、私たちに神の光をもたらずと考えます。

十字架。それは私共が背負いたくないものです。ですが、人生には十字架があ

り、それは、一人ひとりがそれぞれに背負わなければならないものかと考えます。例えば、子供が障がいを持って生まれてくる場合です。本人も家族も、生涯に亘って十字架を背負うことになりま。あるいは、子供が虚弱体質等の弱さを持って生まれてくる場合です。これも、特にご本人が、生涯に亘って十字架を背負うことになりま。あるいは、親に問題があつて、そついう親のもとに生まれて育つ場合です。児童養護施設に預けられている子供たちの多くがそつです。子供の時分から、十字架を背負うことになりま。あるいは、人生の途中で大きなケガをしたり、病になったり、精神疾患になったりする場合です。これも十字架です。おそらく、十字架を背負っていない人は、いないのではないのでしょうか。

私共は、信仰の有る無しに関係なく、すべての人が「十字架を無理やりに背負わされたシモン」です。ですが、神の御計画は深淵です。シモンは、無理やりに背負わされた十字架によって、主イエスとの関係ができて、主イエス・キリストを信じ、その後も教会につながりました。そして何と、息子たちが救われるという大きな祝福に与りました。

神の祝福の現れは、人それぞれです。どうか皆さま、主イエス・キリストによって御自身を現された、父・子・聖霊なる神に信頼し、この御方に懸けてください。